

# 八学大11季ぶりV

## 北東北大学野球

北東北大学野球春季リーグ戦は第5週第1日の18日、県営球場などで13部の計8試合を行った。1部では首位・八戸学院大が、春秋10連覇中の2位・富士大に5-3で勝ち、2013年秋以来、11季ぶり15度目の優勝（改称前の八戸大を含む）を決めた。八学大は、6月に明治神宮野球場などで開かれる全日本大学野球選手権に出場する。

八学大は0-0の二回、1死から6番・富田日（三沢商出）が四球で出塁。続く伊藤（八学光星出）の安打で一、三塁

にすると、中川が左前に運び先制に成功。さらに四球を挟み満塁の場面で、北畠（聖愛出）が右翼に本塁打を放ち5-0とリードを広げた。

四回に失策などで3点を失い、五回も1死満塁のピンチを招いたが、中川の好守備で併殺に仕留めると、五回途中から2番手で登板した中道（野辺地西出）が6者連続で三振を奪うなどの好投を見せ、富士大の反撃をか



【富士大・八学大】2回裏、八学大1死満塁、主将・北畠が右翼に本塁打を放つ。県営球場

### 八学大北畠

### 主将の一振り王座奪還

連覇を打ち砕く白球が右翼席に吸い込まれていく。11季ぶりの優勝を八学大にたぐり寄せたのは、主将・北畠の一発だった。

二回に先制に成功し、なおも満塁の場面。打席に入る前、正村監督に「内野ゴロでもいいから1点取れ」と言われた北畠。「打とうという気持ちより、次につながる」という意識の方が大きかった。

富士大の先発・金村が投じた低めの直球を振り抜くと、「外野の頭を越えてくれれば」と願った打球は、さらにその先へ。最高の形でダイヤモンドを一周した。

昨春は優勝を目前に富士大に連敗して涙をのんだ。「去年は富士大の時だけ自分たちの野球ができていなかった」。主将就任後、意識改革をチームのメンバーに掲げ、生活面から見直した。声掛けも自ら積極的に行った。

そして今春。序盤は引き分け、サヨナラ勝ちと苦しい戦いが続いたが、接戦に強いチームが出来上がった。その自信があったからこそ、2点差に追い上げられ、なお五回に1死満塁のピンチを迎えても不安はなかった。

最後の守りに入った九回。何度も目元をぬぐっていた。「頑張ってきた良かった。後輩に助けられた。後輩にありがとうと言いたい」。最後の打者の三振を見届けると、笑顔で歓喜の輪に入ってしまった。（安達一将）